

新横浜公園 テニスコート



所在地：神奈川県横浜市港北区小机町
敷地面積：70.4ha(公園面積)
テニスコート面積：全天候型ハードコート10面
施主：横浜市
設計：(株)システム・デザイン
電気工事：向洋電機土木(株)
完成：平成20年3月

横浜市最大の運動公園・新横浜公園内に完成した10面規模のテニスコートです。
照明は1kWメタルハライドランプテニスコート専用器具を使用した地上9m高さの照明ポールを採用。
明るく、眩しさも抑制された快適な夜間レクリエーション競技環境が得られています。

横浜市最大の運動公園「新横浜公園」内に完成した10面のテニスコート

新横浜公園は、鶴見川流域総合治水対策の一つである鶴見川多目的遊水池を兼ねた横浜市最大の運動公園で、公園面積70.4haを有しています。平成10年に完成した陸上競技やサッカー等の国際大会が開催できる日産スタジアム(横浜国際総合競技場)をはじめ、日産フィールド小机などの施設があり、最近では野球場やサッカー等の球技が楽しめる運動広場を一部オープンすると共に、10面のテニスコートも完成。さらに、池や流れのある親水エリアを整備し、市民の憩いと安らぎの場となる公園を目指しています。

コート面を集中的に配光制御するテニスコート専用器具を採用

完成・オープンしたテニスコートは、クラブハウスを中央にして左右に5面ずつを並列とした10面のレクリエーション競技施設です。

照明は、ランプ効率がよく、寿命、光束維持率、演色性ともに優れた1kWメタルハライドランプテニスコート専用器具を採用。コート面全体を集中的に照明するよう配光制御された器具で、さらに、ロビングボールなど空間に高く上がったボールを見やすくするアンビエントウインド付の器具設計となっています。上面・下面強化ガラスは虫防止のUVカット処理が施されており、このため電撃殺虫器は設置されていません。

照明ポールは、遊水池であるとともに元水田地帯の軟弱地盤にあって、テニスコート全面の表層1mを地盤改良しているため、照明ポールが沈下しない基礎を設計。照明ポール高さは遊水池に対応可能な地上9m高さとし、コート間には2灯用器具を、ベースライン後方のコート中間には1灯用器具(休憩所側は2灯用器具)を基本として配置しています。

照明点灯制御は現場レストハウスとともに、光ケーブルにより日産スタジアムの中央監視室からも行えるようになっています。

テニスコート面の水平面平均照度は445lx~540lxが得られており、眩しさも少なく、空中でのボールや人の顔の見え方のよい快適なテニスの夜間レクリエーション環境を創出しています。



日産スタジアム側からテニスコートの夜間照明を望む。手前に5面コート、奥に5面のコートが配置



テニスコート内の照明 コート間には2灯用のテニスコート専用器具を、ベースライン後方には1灯用テニスコート専用器具を配置



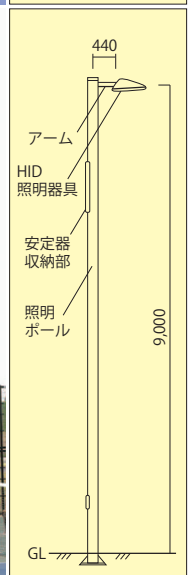
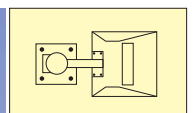
休憩所側からテニスコート方向を望む照明



2灯用テニスコート専用器具



1灯用テニスコート専用器具



1灯用照明ポール姿図

主な照明器具一覧

設置場所	器具名	形名	台数	ランプ
屋外	1灯用テニスコート専用器具	MT10039(改)×1	16	1kWメタルハライドランプ
	2灯用テニスコート専用器具	MT10039(改)×2	8	1kWメタルハライドランプ×2
	2灯用テニスコート専用器具	MT10039(改)×2	16	1kWメタルハライドランプ×2